



生成AI時代の 「人間」と「社会」のゆくえを問う

成長著しい「生成AI」をテーマに、関連する研究分野の講演者をお招きし、
『生成AIの現状と展望』と『AIを人間の価値に沿わせるという課題について』に関する
講演をいただくとともに『パネル討論』を行います。

会場

豊田工業大学
オンライン同時配信

対象

どなたでもご参加
いただけます。
※専門知識を必要としない、
一般向けの内容です。

申込方法

申込期限

2月29日 木

事前申し込みが必要です。
下記二次元コードまたは
豊田工業大学Webページより
お申込みください。

豊田工業大学申込Webページ

<https://www.toyota-ti.ac.jp/event/stydy/002413.html>



◀お申込はこちら

※申込に関するお問い合わせは下記メールアドレスまで
ご連絡ください。
※オンラインでの参加登録者には個別に参加方法
をご連絡します。

日時

2024年
3月6日 水
13:00-16:00

参加費
無料

PROGRAM

開会 (学長挨拶・趣旨説明) 13:00-13:15

豊田工業大学 学長 **保立 和夫**
次世代文明センター長 **江口 建** (豊田工業大学 教授)

講演 13:15-14:00

「生成AIの現状と展望」

東京工業大学 情報理工学院 教授
岡崎 直観氏
Prof.Naoaki Okazaki



さまざまな問いかけに驚くほど自然な応答を返す大規模言語モデル(LLM)は、我々の仕事や生活を大きく変え、幅広い分野で専門家の仕事を支援できる段階にまで発展しました。本講演では、自然言語処理技術や言語モデルの基礎からLLMの仕組みまでを概観します。また、LLMの翻訳への利用事例を紹介しながら、プロンプトエンジニアリング、LLMの得意・不得意、LLMの利用における注意点等について考察します。さらに、日本語に対応したLLMの開発状況や、LLMが社会で引き起こし得る社会変革や問題について議論します。

講演 14:00-14:45

「AIを人間の価値に沿わせるという課題について」

南山大学 国際教養学部 教授
神崎 宣次氏
Prof.Nobutsugu Kanzaki



近年AIは飛躍的な発展を遂げ、これまで以上に道具として活用されるようになり、我々の社会にさまざまなかたちで浸透してきています。効率性や利便性の点で多くの恩恵をもたらしてくれるという期待がその駆動力となっているわけですが、AI活用に伴う格差の拡大や環境負荷の増大などの懸念も指摘されています。こうした懸念から、人権や平等や持続可能性といった諸価値に沿うようにAIの発展を方向付けることが取り組むべき課題として認識されるようになりました。重要なのは、この課題に取り組むことはAIについて考えるだけでなく、人間に関わる諸価値についても改めて検討する機会をわれわれにもたらすという点です。私のような人文系の学者がAIの議論に関わりを持つのは、まさにこの点なのです。今回のシンポジウムではこうした問題について検討できればと思います。

パネル討論 15:00-16:00

講演者 **岡崎 直観氏・神崎 宣次氏** × 次世代文明センター **江口 建・原 大介** (豊田工業大学 教授)





第4回 次世代文明センターシンポジウム

生成AI時代の 「人間」と「社会」のゆくえを問う

近年、急速に進化を遂げている人工知能(AI)の性能には、目を見張るものがあります。なかでも大規模言語モデルを用いた「生成AI」と呼ばれる人工知能の登場は、従来の価値観や社会規範を大きく転換させる可能性を持っています。すでに産業、行政、教育などの現場では、生成AIを活用した仕組みの導入が進められています。今後、ますます人工知能の活用の幅が広がり、生成AIを搭載したシステムが社会の至る所に浸透すれば、私たちの暮らし方や働き方、学び方が大きく変わる可能性があります。

AIの進化は、一方では仕事の効率化や手続きの簡略化をもたらし、私たちの暮らしを便利にしてくれるに違いないという期待を人々に抱かせます。他方で、人間の仕事の一部がAIに奪われる懸念や、社会の自動化・デジタル化が進むことに伴う安全性や教育上の問題、AIの政治的な悪用や軍事利用の危険性等が指摘されています。また、AIに道徳的判断を実装することの難しさや、便利さを獲得することの代償として人間の教養が低下する可能性を指摘する声もあります。こういった事態に直面して、私たちは、どのようにAIと付き合っていくべきでしょうか。

いずれにせよ、これまで人間が判断してきたことの一部や、人間が担ってきた作業の一部は、確実にAIが代行するようになるでしょう。単純な記憶作業や、演算処理、情報の整理・分類・集約といった作業においては、すでに人間はコンピューターには勝てません。それどころか、生成AIの登場は、これまで人間にとって特権的な領域とされていた**芸術や文学などの創作活動**にまで影響を及ぼしています。小説を書いたり、作曲したり、絵を描いたりするAIが、驚異的な速さで社会

に受け入れられつつあります。実際、アメリカの映画業界では、脚本家が短期間で大量に失業するという事態が起こっており、2023年の春から夏にかけて、全米脚本家組合がAIの利用制限を求めてストライキを起こして話題になりました。日本でも、実在の芸能人の代わりに、生成AIを用いて作成した“AIタレント”をテレビのCMに起用する企業が現れ、注目を集めました。

こういった技術の進歩を肯定的に捉えるか、否定的に捉えるか、楽観的に眺めるか、悲観的に眺めるかは、人によって違うと思われます。しかし、すでに私たちの社会は、AIなしには機能しないようなシステムを作り上げています。世界に目を向けてみれば、欧米に対抗するように、中国、インド、韓国といったアジア諸国で国産の生成AIの開発競争が始まっています。現在、生成AIの次のステップとして、より人間の脳に近い機能を持つとされる「AGI(汎用人工知能)」の開発が進められています。AGIは、人間の指示がなくても自分で考え、決断する能力を獲得すると言われています。このようなテクノロジーの進化は、**思考とは何か、知性とは何か、意思決定とは何か**、といった問いを改めて私たちに突きつけます。

本シンポジウムでは、こういったAI開発の動向を踏まえつつ、**人類の未来はどこへつながっているのか、どのようにAIと付き合っていくべきか、人間の地位はどのようなものになるのか、教育のあり方はどのように変化するのか、大学は何をすべきか、最終的に人間に残される能力はあるのか**、等々について、さまざまな切り口から縦横無尽に議論する予定です。

次世代文明センター長 **江口 建**
豊田工業大学 教授

【公共交通機関でお越しの場合】

名古屋・金山駅方面から
地下鉄桜通線「相生山駅」下車、1番出口から徒歩10分。

豊田・赤池方面から
地下鉄鶴舞線「原駅」下車、2番出口から市バス幹線原1系統(相生山住宅・島田一ツ山行き)「高坂小学校」下車、徒歩10分。

●お問合せ
豊田工業大学 次世代文明センター
TEL 052-809-1764
Email s-koho@toyota-ti.ac.jp



〈豊田工業大学の「タグライン」〉

困難で不確かな未来に立ち向かえる強さと豊かな人間性を兼ね備えた、社会や人びとに喜びを与えられるイノベティブな技術者・研究者を育成したい。それが、私たちの想いです。

「進むなら、足跡のない方へ」
ぜひWeb検索してください。

豊田工業大学の
ホームページはこちら

